

6月のできごと

エネモの森の植樹

平成20年の洞爺湖サミット開催を契機に北海道電力株式会社が進分旭の町有地で行っている「あびらの森」植樹祭が5月24日に実施されました。

5年間続いてきている取組みは、50ヘクタールの土地にカラマツの苗木10万本が植えられ、森は町の財産として保全を行い、将来において利活用される場となることが期待されます。

コミュニティスクールの実現に向けて

5月30日教育委員会は、教育関係者を対象に安平町教育研修会を開催。「ふくしまキッズ」の立ち上げに力を注いだ吉田博彦氏（NPO教育支援協会代表理事）を講師に招き、「コミュニティスクールと私たちの町の未来」をテーマに研修しました。

教育委員会では、来年度からスタートする本事業に向け、今年度を「調査研究の年」と位置づけ、仕組みづくりに取り組みます。

安全な道路の確保に

「町道の安全確保をして欲しい」と旧追分町時代より毎年寄付を続けている追分地区土砂生産協議会の理事らが5月31日追分庁舎を訪れました。

同協議会白石勉理事長から町長へ寄付金の贈呈が行われ、長年続けられている同協議会からの厚意に感謝の意を伝えるとともに、町では本年度も町道の補修費用に活用します。

落成記念式典・校舎見学会を実施

追分中学校は4月から新校舎で授業をおこなっています。6月1日の同校の開校記念日に落成記念式典を実施しました。

来賓などを招いて行われた式典は生徒達による校歌の合唱や、校内施設の説明が行われ、太陽光発電を取入れ環境に配慮したオール電化設備や木のぬくもりを感じるやさしい作りの新校舎は、この日終日開放された新校舎見学会に訪れた100名余の地域の方々にも披露されました。

40年の節目

早来ライオンズクラブ（会長前田健治氏、会員数39名）が国際協会認証40周年を迎え、道内各クラブから約180名が集い、6月3日記念式典が行われました。

同クラブは昭和46年に誕生。ライオンズ精神のもと地域の奉仕活動に勤め、青少年育成事業やまちおこし事業などに積極的に取り組んできました。40周年を迎えるにあたり、今後ますます進む高齢化社会に向けて安平町社会福祉協議会に車いすの乗り入れが可能な福祉車両の寄贈を行うなど、奉仕の精神にますます期待されます。

